

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 6年 6月 10日

石川県知事 馳 浩 殿



提出者

住 所 石川県加賀市大聖寺地方町13の6番地の2

氏 名 小中出建設株式会社

代表取締役 小中出 佳津良

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

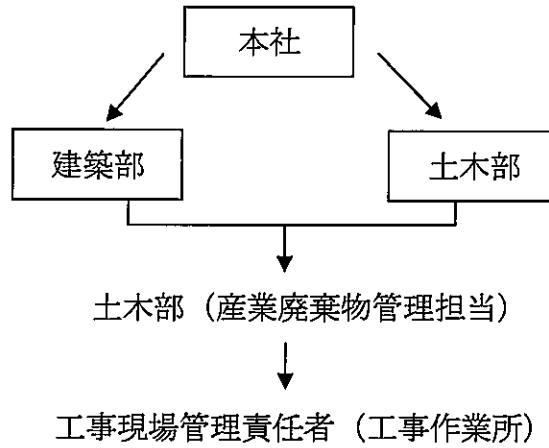
電話番号 0761-72-0711

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	小中出建設株式会社
事業場の所在地	石川県加賀市大聖寺地方町13の6番地の2
計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	06:総合工事業
②事業の規模	令和5年度 元請完成工事高 57,814万円
③従業員数	19人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none">・廃プラ . . . 全量委託処理 (破碎・選別・圧縮、再資源化)・紙くず . . . 全量委託処理 (焼却・選別・圧縮、再資源化)・木くず . . . 全量委託処理 (焼却・選別・破碎、再資源化)・金属くず . . . 全量委託処理 (スクラップ処理にて再資源化)・がれき類 . . . 全量委託処理 (再生砕石として、再資源化)・コンクリがら . . . 全量委託処理 (再生砕石として、再資源化)・アスコンがら . . . 全量委託処理 (再生砕石として、再資源化)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

((管理体制図))



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度 (令和5年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき類への土砂、砕石等の混入を防ぐ
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) コンクリートがら、アスファルトがらの処分は単独の工程とする。 樹根等は、数日間、現場内に存置した後処分する。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項														(単位:t)		
①現状	【前年度(令和5年度)実績】													総合計		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	金属くず	ガラス陶(焼石膏ボード)	がれき類(その他)	がれき類(コンクリート破片)	がれき類(アスファルト破片)	混合(安定型)	混合(管型)	石棉含有産業廃棄物	蛍光灯	総合計	
	排出量	11.695	2.820	51.875	1.460	6.569	12.220	115.604	986.905	298.040	2.262	11.530	3.690	0.035	1,504.705	
	(これまでに実施した取組)															
	特になし															
	②計画	【目標(令和6年度)】													総合計	
		産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	金属くず	ガラス・コシクリ・陶磁器くず	ガラス陶(焼石膏ボード)	がれき類(その他)	がれき類(コンクリート破片)	がれき類(アスファルト破片)	混合(安定型)	混合(管型)	石棉含有産業廃棄物	総合計
		排出量	10.00	2.00	46.50	1.00	5.50	10.00	105.00	880.00	250.00	2.00	10.00	3.00	0.03	1,325.030
		(今後実施する予定の取組)														
		有価物としての再生を積極的に取組む。														

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

(第4面)

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

(単位:t)

①現状	【前年度(令和5年度)実績】				
	産業廃棄物の種類	がれき類 (コンクリート破片)	がれき類 (アスファルト破片)	木くず	総合計
	全処理委託量	986.905	298.04	51.875	1,336.820
	優良認定処理業者 への処理委託量	20.99			20.990
	再生利用業者へ の処理委託量	965.915	298.04	51.875	1,315.830
	認定熱回収業者 への処理委託量	/			
	認定熱回収業者 以外の熱回収を行 う業者への処理委 託量	/			
	(これまでに実施した取組)				
	それぞれ再生利用可能なものは、再生事業者に委託している。				

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙manifestoを全て電子manifestoへ移行し運用管理する。 ・極力、発生現場近くの処理業者に委託し、 運搬距離を少なくする。 		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。